

発掘

京都大学総合博物館 平成三十年度特別展
文化財発掘Ⅴ

発掘
窯

2019. 2.20[水] ▶ 4.21[日]

9時30分～16時30分（入館は16時まで）

休館日 月曜日・火曜日（平日・祝日にかかわらず）

入館料 一般400円 高校生・大学生300円 小学生・中学生200円

*20名以上の場合は団体観覧料が適用されます。

*障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方1名、70歳以上の方、
京都大学学生および教職員、京都府下の大学在籍の学生は無料（要証明証）

主催：京都大学総合博物館・京都大学文化財総合研究センター

Kenzan-ware Workshops and Kilns:
An Archaeological Perspective

京都大学総合博物館 MUSEUM

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL (075)753-3272 <http://www.museum.kyoto-u.ac.jp>

THE KYOTO UNIVERSITY MUSEUM

発掘 乾山窯

Kenzan-ware Workshops and Kilns : An Archaeological Perspective

京都大学構内から出土した埋蔵文化財を紹介するシリーズ「文化財発掘」の5回目は、病院構内出土の乾山焼に光をあてた展示を企画しました。乾山焼は尾形深省（乾山）によって生み出された江戸時代中期のやきもので、陶磁器の世界に新風を吹き込みました。京都西北部の鳴滝の地に窯を築き、のちに鴨川の東に位置する聖護院へ移動して、やきもの作りを継続します。病院構内の発掘調査で出土した乾山焼は、この聖護院窯に関わるものです。

今回の企画では、聖護院および鳴滝出土の乾山焼を一堂に会して展示します。両窯で製作された乾山焼には、どのような違いや共通性があるのでしょうか。乾山焼の源流となった押小路焼、乾山の庇護者ともいえる二條家の邸宅跡出土品もあわせて展示することで、乾山焼の実像を探ります。

窯跡遺跡からの出土品の多くは完成に至らなかつた失敗品で、伝世品に見られるような華々しさは持っておりません。しかしながら、その地で作られたことを確実に示す失敗品は、乾山焼の実像を新たにさせる可能性を秘めています。この展観を通じて、乾山焼に対する理解が深まることを期待します。

窯部材・窯道具（京大病院構内出土）



乾山焼碗（鳴滝乾山窯跡出土）

鳴滝乾山窯跡に建つ石碑

乾山焼碗（京大病院構内出土）

乾山焼面付（京大病院構内出土）

【展示関連講演会】

- ◆ 第1回 3月9日（土）午後2時～3時30分
千葉 豊（京都大学文化財総合研究センター准教授）
「考古資料と美術作品―「発掘 乾山窯」を企画して―」
西川秀敏（法蔵禪寺住職・禅文化研究所研究員）
「尾形乾山―生涯とその芸術―」
- ◆ 第2回 3月16日（土）午後2時～3時30分
郷 銀珍（大阪市立東洋陶磁美術館学芸員）
「乾山焼の成形技術と意匠」
- ◆ 第3回 3月23日（土）午後2時～3時30分
木立雅朗（立命館大学文学部教授）
「乾山窯と京焼窯―民俗考古学からみた御室・鳴滝・五条坂―」
- ◆ 第4回 4月6日（土）午後2時～3時30分
リチャード・ウィルソン（国際基督教大学教養学部特任教授）
「乾山研究50年」

*会場：総合博物館本館3階 講演室 講演はいずれも日本語
*参加費無料・申込不要（ただし、博物館への入館料は必要）

【主な展示品】

- ・鳴滝乾山窯跡出土品（法蔵禪寺蔵）
- ・京都大学病院構内出土の乾山焼（京都大学文化財総合研究センター蔵）
- ・二條家邸宅跡出土の乾山焼（同志社大学歴史資料館蔵）
- ・平安京左京三条四坊十町跡出土の押小路焼（京都市埋蔵文化財研究所蔵）
- ・復原銅炭窯（立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻蔵）

京都大学総合博物館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL (075)753-3272 FAX (075)753-3277
info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp
http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/

交通機関
●市バス
JR／近鉄京都駅から17・206系統
阪急河原町駅から3・17・31・201系統
地下鉄烏丸線今出川駅から201・203系統
地下鉄東西線東山駅から31・201・206系統
「百万遍（ひゃくまんべん）」下車徒歩約2分
●京阪「出町柳」駅下車徒歩約15分
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。



*背景の写真：乾山焼が出土した発掘調査地点（京大病院構内）
*表紙の写真：二條家邸宅跡出土乾山焼（同志社大学歴史資料館蔵）